

## トラック1

皆様に今宵お話をさせていただきますは、  
かつて栄華を誇ったとある国家の滅亡のお話にございます…♡  
慈愛に溢れた賢き王と、正義感に溢れた英雄がいながら  
なぜ滅んでしまったのか、わたくしの口から、語らせていただきます♡  
ふふふふふ…♡  
では、物語の始まり始まり…♡

あら、お客人。こんばんは。こんな夜更けにどうなさったんですか？  
王妃であるわたくしの寝室にいらっしゃるなんて、他の者に知られたら大変ですよ？  
我が王はわたくしをひどく愛しておられますから、  
愛人か…暴漢とでも疑われたら極刑は免れないでしょう。  
貴方のことはわたくしだけの秘密にしてさしあげますから、お引き取りください。  
今宵はもうすっかり月も登りきりました。ゆっくりとお休みなさい。  
それとも……何か、急ぎの御用でしょうか？

あら？その剣は……。  
なるほど、この国の王妃であるわたくしの正体が淫魔であることを知ってしまったのですね？  
そういうことでしたら、わたくしを生かしておくわけにはいかないでしょう。  
御用というのは、わたくしの暗殺…といったところでしょうか？

ふふふ……恐ろしいですね。  
しかし、このままわたくしを殺してしまって良いのでしょうか？  
命乞いと思われるかもしれませんが…誤解なさいませんよう。  
わたくしはただ、真実をお話ししたたいだけです。  
ここでわたくしを殺してしまえば、永遠に民草は苦しむことになるでしょう  
何も知らぬままわたくしを斬れば貴方はただの罪人。  
しかし、真実を知ってさえいれば、  
貴方はきっと真の英雄となれるでしょう。

わたくしがもし、貴方の推測通りの傾国の毒婦であるならば、  
どんな罪を犯し、どのような策略で民草を苦しめているか…  
それを語らせなければ問題は解決せず、人々は苦しむことになるでしょう。  
ふふふふふ…♡  
このままでは…わたくしとしても、貴方に切り捨てられた後、  
何の罪もない民草が救われるのか否か、未練になってしまいますもの…♡  
お嫌でしょう？

自分が切り殺した王妃が民草への未練で化けて出て、  
夜な夜な貴方の枕元に立ってすすり泣くのは…？  
ですから…ええ♡  
話して聞かせて差し上げます♡  
わたくしが王妃としてどのような所業をしてきたのか、  
この国の歴史の中で最も賢く、慈愛に満ちた王と呼ばれた我が夫が、  
なにゆえ圧政を敷いて重税を課し、民草を苦しめる愚かな王へと堕ちたのか…  
その真相を、わたくしの知り得る限り…♡ふふっ…♡  
ですから、剣をしまってこちらへいらっしゃってはくれませんか？

話を聞く気になってくれたのですね？ それでは、お話しさせていただきます♡  
お耳を少し、お借りいたしますね…♡  
他の者に聞かれたら困りますもの…♡

最初にお話しさせていただきますが、わたくしが陛下に命令したことなど一度もありません。  
善政も悪政も全て、陛下の御意志です。  
そんなバカな、と思われるかもしれませんが、これは事実にございます…♡  
わたくしはただ、陛下を愛し、陛下に愛されるだけの存在。命令など、何一つ……  
くすっ……♡

でも、そうですね……。  
陛下を可愛がってあげたら何故か、  
私の思うように国政を動かしてくれましたね……♡  
わたくしの胸、大きいでしょう？  
その上とってもやわらかくて甘い香りがするので、  
陛下はいつもわたくしの胸の谷間に顔を埋めて、  
乳房に頬擦りしながらお眠りになるんです♡  
最初はわたくしが、執務でお疲れの陛下をお労りするために始めたのですけれど…  
今ではすっかり陛下の方が夢中になってしまっておられるのです♡  
始めた頃は陛下も恥ずかしがっていたんですけれど、  
毎晩毎晩、わたくしの乳房で労わって差し上げていたら  
十日もしないうちに自分からおっぱいをねだるようになってしまったんですよ♡

おっぱいでお顔を挟んでさしあげてから、ぱふぱふ♡ぱふぱふ♡  
そのようにしてあげると、おっぱいのことが大好きになってしまうようなのです♡  
殿方って、いつまでもおっぱいが大好きな赤ちゃんなんですね♡  
陛下があんまりにも可愛らしく『おっぱい♡おっぱい♡』って言うので  
おっぱいおしゃぶりで口を塞いであげたら、すごく嬉しそうにちゅぱちゅぱ吸うので、  
思わず『坊や』って呼んでしまったのです♡

そうしたら次の日からわたくしのことを母上と呼ぶようになってしまったのですよ♡  
とっても可愛らしいですよ♡

くす……♡そんなにわたくしの胸……おっぱいが気になりますか？  
貴方様もわたくしの胸に顔を埋めてぱふぱふ…ぱふぱふ…とされたり、  
赤子のように乳首をちゅぱちゅぱと吸って甘えたくなくなってしまわれたのですか？  
ふふふふふ…♡  
あら、違われましたか…♡  
それなら良かったです。わたくしのおっぱいにお顔を埋めたり、  
おしゃぶりに出来るのは陛下ですから……♡

おっぱいが気になりませんのでしたら……、  
わたくしの腋のお話でも如何ですか？

わたくし、どうにも汗をかきやすいので腋が香ってしまうのですが、  
陛下はそれをとてもお気に召していらっしゃいました♡  
ある時、陛下の首に腕を回して抱き締めて差し上げたら、  
腋の香りにあてられ他陛下が、公務の最中でしたのに  
わたくしを寝室へ連れ込まれてしまったのですよ♡  
寝室にわたくしを連れ込んだ陛下は、  
夢中になってわたくしの腋を嗅いだり舐めたりしていらっしゃいました♡  
その様子があんまり可愛いので、ぎゅっと腋を締めて顔を挟んであげますと、  
それだけで絶頂してしまったのですよ♡  
以来、陛下は腋に顔を挟ませてたっぷりと香りを楽しみながら  
手でおちんちんを扱かれるのが好きになってしまったようです♡

あら、どうされました？  
わたくしの話を聞いているうちに、  
貴方も腋に顔を挟んで香りを嗅ぎたくってしまいましたか？

うふふ……♡  
まさか、そんなはずはありませんよね？  
貴方様はこの国を傾けている悪女を打ち倒す、正義の人。  
圧政を敷きながら王妃の腋の香りに夢中になって、  
毎晩毎晩快楽に溺れてしまう陛下とは違いますものね……♡  
汗ばんで滑るわたくしの腋におちんちんを挟んでもらって、  
みっともなく腰を振っておっぱいに精液を撒き散らしてしまうようなことは、  
陛下以外の男の人はしたがりませんよねえ…♡

お次はそうですね……。脚の話など如何でしょう？  
恥ずかしながら。わたくしの腿は肉付きが良く…  
脚を閉じるとぴっちり隙間なくくっついてしまうのです♡  
ほうら…触っていただけますか…？

触っていただいたらお分かりになる通り、  
やわらかな肉が付いているものですから恥ずかしく思っていたのですが……。  
陛下はわたくしの太ももを枕にしてお休みになるのを  
とても楽しんでいらっしゃいました♡  
以前はただ頭を乗せるだけでしたが…  
ある時戯れにお顔を挟んであげましたら、  
それはもう…大変喜ばれていましたよ♡  
お美しいお顔が歪むのも構わず、むぎゅうっと挟み潰してあげると、  
嬉しそうにお鳴きになるのです♡

それに…お顔だけではなく、  
おちんちんを挟んであげるのも大変気に入ってくださいました♡  
女性を喜ばせ、孕ませるのに十分な立派なものをお持ちでありながら、  
膣ではなくわたくしの太ももの谷間に挿入されて、へこへこと腰を振っていましたよ♡  
わたくしがぎゅっと太ももで圧迫して差し上げますと、  
簡単にお漏らししてしまうのです♡

太ももでおちんちんを挟んであげて、スリ♡スリ♡として差し上げますと、  
みっともない声を出しながらお漏らししてしまうんです♡  
その後、べっとりと熱い精液を太ももで磨り潰す様子を見せてあげますと、  
またそれだけで興奮なさっていました♡  
わたくしのおっぱいに顔を埋めて、ぱふぱふ♡ぱふぱふ♡とされながら  
太ももにおちんちんを挟んでへこへこと腰を振るのを、  
陛下は子作りと勘違いなさっていたのでしょうか？  
皇子を残さなければならない立場でありながら、  
一滴残らず太ももに吐き出してしまうことも珍しくありませんでした♡  
どうでしょう？ 十分に真実を知ることにはできましたでしょうか？

おや、まだ聞き足りないご様子ですね？  
そうですか。では、今度はこちらのお話を……